慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	三田社会学の創刊にあたって
Sub Title	
Author	山岸, 健(Yamagishi, Takeshi)
Publisher	三田社会学会
Publication year	1996
Jtitle	三田社会学 (Mita journal of sociology). No.1 (1996.) ,p.1-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	創刊の辞
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-19960000-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田社会学の創刊にあたって

山岸　健

青春の地をある人びとは、三田の山と呼び、また、ある人びとは、丘の上と呼ぶ。

戦後、数年経ったある日、彫刻家、イサム・ノグチと建築家、谷口吉郎は、そろって三田の山に姿を見せている。そのとき、この彫刻家は、建築家に向かって、ここはアクロポリスだ、と叫んだのである。ジョン・ダンのある詩をもじって、三田の山をこのタンポポの丘　this Dandelion hill　と呼んだのは、西脇順三郎である。四月から五月の初め頃まで三田の山のいたるところにタンポポが咲き乱れていたからである。

昭和30年代の初め頃には、この丘の上から海が見えたことが思い出される。教室の窓からかなたに房総半島の一部が展望された日があった。窓を開ければ、海が見えたのである。

いま、三田界隈の風景は、日ごとに変わりつつあるように思われる。時は過ぎ去ったのである。

1996年夏、三田社会学が船出する。三田社会学の永続的な発展と三田社会学会の充実した研究活動を祈りたい。この学会誌の存在意義が年を追って高まり、その内容がますます豊かなものとなるならば、まことに幸いだと思う。会員の方々の心暖まる協力と力強い支持を切望する次第である。

三田社会学誌上でオリジナルな研究がつぎつぎに発表されていくことだろう。社会学を越えた広がりで、さまざまな視点から、いろいろなパースペクティヴで、人間と社会への、日常生活への、時代への、多様なアプローチが、意欲的に試みられていくにちがいない。三田社会学のために積極的に研究成果を発表していただきたいと思う。会員の方々の支えと協力によって、存在感のある高水準のジャーナルがかたちづくられていくことが期待される。

三田の山、西端にあるイサム・ノグチの彫刻作品「無」――半円を描いた独特の形が私たちの目に映る。飛翔する鳥がイメージされた作品だ。三田社会学の雄飛が期待される。

TEMPUS FUGIT　“時は過ぎゆく”　三田山上、旧図書館、外壁の時計の文字盤に飾られた言葉だ。12時にあたるところには砂時計がデザインされている。姿を変えた日時計である。

過ぎゆく時の流れのなかで、三田社会学に着実な歩みが見られることを希望したい。タンポポの丘、アクロポリスにおいて、いま、新たなページが開かれる。

(やまぎし　たけし　第3期三田社会学会会長)